

【学習のねらい】

後だしジャンケンをしてその感想を話し合うことにより、日常生活の中に、幼い日からの生活を通して「すりこまれた」ことが多く存在することに気づく。

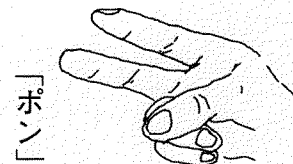
【進め方】

- (1) パートナーを決め、「ジャンケンポン」と2人で一緒に手を出すのではなく、ジャンケンポン・ポン」と2人が一瞬ずらして手を出す「後だしジャンケン」をする。
- (2) 次の3つのパターンで交代して行う。

A	後から出した人が必ず	「勝つ」ように出す	3回ずつ
B	後から出した人が必ず	「あいこ」になるように出す	3回ずつ
C	後から出した人が必ず	「負ける」ように出す	3回ずつ
- (3) 「どれが一番難しかったですか？」と問いかける。参加者の答えは「負けるのが難しい」となる。そこで、「どうして難しいんでしょう」と問いかけ、参加者の意見をつなげていく。

＜発言例＞

- ・ジャンケンで勝つためにやってきたから、負けると言われていたのに勝ってしまう。
 - ・どうも、私は勝ちたい気持ちが強いみたいです（笑い）。
 - ・こんなに負けるのが難しいとは、驚いた。
- (4) 身の回りから同じように「すりこみ」により、信じてきたことを探し出し、発展的に話し合う。



【留意点】

- (1) 「すりこみ」のおそろしさと「すりこまれた」ことを正していくことが容易ではないこと、同和問題も多くの「すりこみ」によって今日に至っていることに気づき合いたい。
- (2) 発展として次頁からの「病院の待合室で」「今日学校でね」などで話し合いを深めたい。